曲目の紹介

◈［入間川］いるまがわ（大名狂言）

大名　山本 凜太郎
太郎冠者　山本 則孝
入間の某　山本 則秀

訴訟の件で長い間、都へ留め置かれた大名ですが、ようやく願いが叶い太郎冠者を伴って意気揚々、東国の国元に帰ります。すべて望み通りとなった上、新たな領地まで拝領した嬉しさに天下を取ったような気分の大名。

武蔵の国まで来ると大きな川にでますが、どうしても川の名前が思い出せません。そこで対岸の人に尋ねますが、横柄な物言いをしたため、同様に言い返されてしまいます。

怒った大名は太刀を抜きかけますが、太郎冠者になだめられて丁寧に問い返します。川の名を「入間川」と教えてもらった大名は心の中で「入間川の逆さ言葉」を使った仕返しの機会を伺います…。

◈［棒縛］ぼうしばり（小名狂言）

次郎冠者　山本 泰太郎
主人　若松 隆
太郎冠者　山本 則孝

主人はいつも自分が外出した隙に、太郎冠者と次郎冠者が盗み酒することに気づきます。ある日の外出に一計を案じます。次郎冠者は両腕を左右に広げたまま棒に縛りつけ、太郎冠者も後ろ手に縛ってから外出します。残された二人はそれでも酒を飲みたくなり、何とか協力して酒を飲もうと必死の努力を始めるのだが…。

◈［伊文字］いもじ（女狂言）

（前）女　山本 東次郎
（後）通りの者　〃
主人　山本 凜太郎
太郎冠者　山本 則重

独り身の主人、妻を授けて欲しい、と祈願のため清水の観世音菩薩祈願に太郎冠者とやってきた。

主人に夢のお告げが下ります。お告げに従って西門に行くとお告げのとおり、高貴な女性の姿が。

迎えを差し向ける為、主人が太郎冠者にその住まいを問わせると、女性は返事を歌で返して姿を消してしまいました。

太郎冠者はあわてて主人に報告しますが歌の後半、地名を読み込んだ部分がどうしても思い出せません。

困った二人は、道行く人に歌の続きを教えてもらおうと、関所を作ります。そこへ男が通りかかります…。

◈狂言のお話

山本 東次郎
日本芸術院会員・人間国宝・文化功労者

演者の紹介

山本 東次郎　やまもと とうじろう　昭和十二年生

狂言方大蔵流・山本東次郎家四世。三世東次郎の長男。山本会を主宰。
平成四年度芸術選奨文部大臣賞受賞。
平成十年紫綬褒章受賞。
平成十三年エクソンモービル音楽賞受賞。
平成十九年日本芸術院賞受賞。重要無形文化財総合指定。
平成二十四年七月人間国宝認定。
令和四年文化功労者
著書『狂言のすすめ』『狂言のことだま』（どちらも玉川大学出版部）。『狂言 山本東次郎』（共著 新人物往来社）。東京都杉並区在住。

山本 泰太郎　やまもと やすたろう　昭和四十六年生

山本則直の長男。父および東次郎に師事。
昭和五十二年、「靭猿」の子猿で初舞台。
平成二年「三番三」、平成八年「釣狐」を披く。
平成二十二年度文化庁芸術祭優秀賞受賞。
平成二十三年日本伝統文化振興財団賞受賞。
令和四年「枕物狂」を披く。
若手能楽師と『三聲会』を開き研鑽の場としている。
重要無形文化財総合指定。狭山市立南小学校出身。

山本 則孝　やまもと のりたか　昭和四十八年生

山本則直の次男。父および東次郎に師事。
昭和五十三年「伊呂波」で初舞台。
平成八年「三番三」、平成十五年「釣狐」を披く。
若手能楽師と『三聲会』を開き研鑽の場としている。
重要無形文化財総合指定。狭山市立南小学校出身。

山本 則重　やまもと のりしげ　昭和五十二年生

山本則俊の長男。父および東次郎に師事。
昭和五十七年「伊呂波」で初舞台。
平成十二年「三番三」、平成十六年「釣狐」を披く。
若手能楽師と『七拾七年会』を開き研鑽の場としている。
重要無形文化財総合指定。

山本 則秀　やまもと のりひで　昭和五十四年生

山本則俊の次男。父および東次郎に師事。
昭和六十年「伊呂波」で初舞台。
平成十四年「三番三」、平成十八年「釣狐」を披く。
重要無形文化財総合指定。

山本 凜太郎　やまもと りんたろう　平成五年生

山本泰太郎の長男。父および東次郎に師事。
平成九年「伊呂波」で初舞台。
平成二十八年「釣狐」を披く。
令和四年「花子」を披く。
狭山市立柏原小・中学校出身。

若松 隆　わかまつ たかし　昭和三十四年生

東次郎に師事。
平成二十八年「三番三」を披く。

狂言講演会（主催 狂言入間川を観る会・共催 中央公民館）

狭山市の若手狂言師 山本泰太郎、則孝、凜太郎による事前学習会（狂言ワークショップ）

毎年恒例の狂言講演会を
今年も開催します。
ぜひご参加ください。

日　時　2月8日(木)　14時30分～16時
会　場　狭山市市民交流センター1階コミュニティホール
定　員　先着100人(TEL申し込み)　入場無料
申し込み・問合せ先　中央公民館 04-2952-2230